

・ディレクトフォース

私たちは、初日の午前中に立派な国際会議場で笹川平和財団やディレクトフォースの方々から数々の興味深いお話をお聞きした。その日私たちがお話するのは、これまで国内外問わず様々な分野の第一線で活躍してきた方たちであると事前に知らされていたので、そのような貴重な機会が持てることをとても楽しみにしていた。この会はず、笹川平和財団の田中伸男氏による基調講演で始まった。『国際機関を目指す諸君に』という題のもと、国際エネルギー機関事務局長時代の経験を織り交ぜたお話を聞かせていただいた。

田中氏の講演の中で印象的だったことが二つある。一つ目は、石油などのエネルギーの市場を安定させたいと考える国際エネルギー機関と、石油価格を上げ、利益を増やしたいとする OPEC との対立である。事務局長の立場として、OPEC とうまく付き合い、互いに石油の将来を見通すため数々の努力をされたそう。数多くの場で自分の考えを発言し、良い人間関係を築いていくことの大切さを感じた。二つ目は、ヨーロッパで集团的エネルギー安全保障の可能性実現が目指されていることだ。これはある国が災害などの理由で国内に電力が供給できなくなったときに、周りの国々から電力を分け与えてもらうというものである。日本国内には電力の周波数が二種類あり、電力の共有化が成されていないのに、ヨーロッパではここまで考えが進んでいるのかと驚いた。また、ソフトバンクの社長である孫氏はアジア内でも電力の助け合いを行おうと唱えている。孫氏の先見の明に驚くとともに中国やロシア、韓国などの周辺国と良好関係を築くことの重要性も感じた。自分の知らない世界に足を踏み入れたような、非常に新鮮な気持ちになった。次に、四人の方々から海外での経験やプロジェクトを達成することについて詳しく教わった。一人目の方は、三菱信託銀行に入社し、ニューヨーク、ロンドン、チューリッヒ、ロサンゼルスなどに駐在されていた石川氏だ。彼はディスカッションの中で何度も私たちに「よく勉強なさい。」とおっしゃっていた。外国には私たちとは異なる文化、人種、宗教を持った人がたくさんいる。そのような人々とともに仕事をする上で、彼らのことを知る必要があるのだそう。そのため、日頃の学習に身を入れ、基礎教養を高めなければならないだろう。またグローバル社会を生きていく上で、他人と円滑に喋れるコミュニケーション力、時代の流れを読む力、自分の中で明確な夢を持ち、それを大切にすることの三つが欠かせないとおっしゃっていた。二人目は、笹川平和財団で造船関連の調査研究、海洋管理、北極海、海洋教育、国際協力のプロジェクト担当をされている酒井氏だ。酒井さんには大学を卒業するまで「〇〇をしたい」という明確な夢がなかったそう。しかし、ヨットとの出会いによって、「海洋関係の仕事をしたい」という夢ができたそう。そのときに、学生の頃にはあまり好きではなかった生物や地理を熱心に勉強していたおかげで今の仕事につけたそう。自分の夢がいつか何かをきっかけに変わってしまわないとも限らない。だから、そのときに力不足でその夢を諦めることがないように日頃の勉強を大事にしていきたい。三人目の方は、三井物産株式会社のシニア・プロジェクト・マネージャーとして世界中を飛び回った越川氏だった。越川さんには、プロジェクトを進めていくために重要なことは、自分の中でしっかりと意志を持って発言すること、相手の意見をしっかりと受け取ることであると教えていただいた。それらを外国人と行うためには、十分な英語力が必要になってくる。この英語力を身に付けるためには、まず語彙を増やすことが有効であるとおっしゃっていた。四人目の方は、NGO グループを立ち上げ、移民・難民コミュニティの社会統合・生活支援活動をされ

ている林さんであった。彼女の話の中で心に残っているのは、「自国の平和だけでなく世界全体の平和を考える」ということである。今、世界で起きている紛争や戦争の原因の大部分は 自分の所属する組織の利益や平和を求め、対立することだ。そこで考え方を換え、世界全体の平和について考えたら紛争や戦争はなくなるのではないかと、というお話だった。

今回お話しした四人の方はどなたも、自信のある堂々とした話し方をしていたのが印象的だった。やはり数多くの困難を経験し、切り抜けてきたということがそれにつながっているのではないかと感じた。

・企業訪問

その日の午後は、コニカミノルタ株式会社の八王子にある日野研究所を訪問した。コニカミノルタは、1873 年に創設したコニカと 1928 年に創設したミノルタが 2003 年に合併してできた企業である。「新しい価値の創造」という経営理念のもと、「グローバル社会から支持され、必要とされる企業」をビジョンに掲げている。日本国内では、企業向けの複合機を販売している大手としてよく知られている。海外へも進出し、世界 45ヶ国に拠点を広げている。また特許の数は日本企業の中で 16 位、売上高研究開発割合は 7.4%であり、研究開発に力を入れている。コニカミノルタの技術は主に四種類に分けることができる。画像処理や作像プロセスなどが含まれる画像分野、精密成形や表面加工などが含まれる微細加工分野、光学設計や光計測などが含まれる光学分野、そして有機材料・粒子などが含まれる材料分野である。中でも工学分野に関しては世界最先端の技術を持っており、光ディスクに用いられるレンズは7,8割のシェア、テレビの液晶に必要な TAC フィルムに至っては世界で数社しか製造できないものであるようだ。どの分野も相互に関係しあいながら一つの製品を作っており、レンズの技術を応用して医療用の機械やプラネタリウムの開発・販売も行っている。

今回は製品開発に携わっていた方にお話しを伺うことができ、技術者として必要なことも教えていただいた。彼によると、技術者に最も求められるのは「自分の専門外の分野」を理解することだそうだ。一つの製品にはさまざまな分野の技術が結集されていて、互いに影響しあっている。だから自分の担当する部分だけでなく、他の部分も把握していなければ、全体を見通すことができない。そのため、技術者には幅広い知識が求められるようだ。グループの人たちと協力して作業しているからといって自分以外の人の仕事に無関心だと、活動がうまくいかないというのは私自身も感じたことがあったので、とても納得できた。

実際に研究・開発に携わっていた方からの話は非常に興味深く、刺激的であった。将来エンジニアとして働きたいと考えている私にとってこの体験は、最先端の技術に関する知見を深められただけでなく、技術者に求められるものを知ることにもなった。そのおかげで、自分の目指す未来像をより明確なものに近づけられたと思う。